

文化財のデジタル化と その保存・活用

イギリスと日本

§日時 平成29年11月22日 **水** 17:45~20:10
(開場: 17:20)

§会場 尚友会館 8階 会議室 (東京都千代田区霞が関3-1-1)

文化財保護法の見直しや大規模なデジタル化事業が行われるなど、日本における文化財をとりまく状況が大きく変貌しつつあります。

文化財保護法の見直しは、文化財行政がより「活用」へと重心を変えるものであり、それはともすれば「保護」とのバランスが崩れかねない状況にあるともいえます。

一方で、世界全体をおおうデジタル化の波は、これらの保護と活用の関係性そのものも変えてしまうようなものになっています。

そこで、本集会では、デジタル化等を通じて文化財の様々な課題を乗り越えてきた先行事例であるイギリスの状況について、ウェールズ国立博物館のデイビッド・アンダーソン館長をお迎えして講演をいただき、文化財のデジタル化とその保存・活用について、日本ではどのように考えるべきなのか議論を行いたいと思います。

17:20 開場

17:45~17:50 開会挨拶・趣旨説明
久留島浩 (国立歴史民俗博物館館長)

17:50~19:00 講演
「イギリスにおける文化財の保存と活用について
—ウェールズ国立博物館の実践をふまえて—」
デイビッド・アンダーソン氏 (ウェールズ国立博物館館長)
※逐次通訳 (日英) あり

19:00~19:20 報告
「日本における文化資源と
歴史資料の大規模デジタル化の現状と課題」
後藤真 (国立歴史民俗博物館准教授)

19:20~19:25 休憩

19:25~20:05 討論
デイビッド・アンダーソン氏 (ウェールズ国立博物館館長)
三木美裕 (国立歴史民俗博物館客員教授)
後藤真 (国立歴史民俗博物館准教授)
司会: 久留島浩 (国立歴史民俗博物館館長)

20:05~20:10 閉会挨拶
小林淳一 (東京都江戸東京博物館副館長)

デイビッド・アンダーソン氏

David Anderson, Director general, National Museum Wales, Cardiff
イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館で博物館教育部門を長く率いた後、2010年にウェールズ国立博物館館長に就任。イギリスの文化行政施策に関わるアドバイザーとして、Culture On-Line、Creative Partnerships、National Museum and Gallery Education Strategyなどの答申をまとめた。著書“A Common Wealth: Museums in the Learning Age”は、専門書としては異例のベストセラーになった。昨年までイギリス最大の博物館協会会長を務めた。

■参加無料

■定員100名

※先着順
※事前申込み不要

【問い合わせ先】・国立歴史民俗博物館 メタ資料科学研究センター mail:meta-shiry@rekihaku.ac.jp tel:03-5777-8600
・全国歴史民俗系博物館協議会 事務局 mail:rekimin@rekihaku.ac.jp tel:043-486-4303

■主催 / 国立歴史民俗博物館「総合資料学の創成」事業 ■共催 / 全国歴史民俗系博物館協議会関東ブロック